

# オンラインスポーツツーリズムにおける地域への関与についての予備的考察

藤田 美幸 (新潟国際情報大学 経営情報学部 経営学科)

Keyword: オンラインスポーツツーリズム、スポーツ消費者、スポーツツーリズム、オンラインスポーツ

## 【研究背景と目的】

新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19 という）は、世界各地に感染者が拡大し社会活動や経済活動に多大な影響を及ぼしている。日本では、2019年1月に初めて感染者が確認されて以降、感染者は毎日報告されている。2020年7月に開催予定であった東京オリンピックは2021年に延期され、他にも2020年に予定されていた地域のスポーツイベントは中止あるいは延期されている。スポーツイベントは、オリンピックに代表されるように開催する地域にとっては地域活性化につながる。日本では観光庁（2011）を中心としスポーツツーリズムや、多数の参加者や観戦者が見込めるスポーツイベントの開催、大規模な大会やスポーツ合宿の誘致等のスポーツを核とした地域活性化に向けた政策を推進している。マラソン大会は2007年2月に「東京マラソン」の開催を契機として、全国的にランニングブームをもたらした全国各地で市民マラソン大会が開催されている。市民マラソンを調査した杉本（2016）によると、参加動機に「観光地を走れるから」「旅行ができるから」とある。このようにスポーツツーリズムは、地域外からの参加者にとっては観光が参加動機のひとつになっている一方で、当該地域内の参加者にとっても、住んでいる街を再考する契機となりうる。しかしながら、COVID-19の影響が拡大しマラソン大会のようなスポーツイベントが自粛されている。

そのような中、2020年3月よりオンライン上でマラソン大会が各地で開催されるようになった。あらかじめ定められた期間内に決められた距離を走り、タイムなどをアプリ上で計測し参加者で共有するものである。大規模な大会では2万人が参加し完走した。COVID-19収束後もオンライン上でのマラソン大会は普及する可能性がある一方で、参加者の動機づけと地域への影響の検討は不足していることから、本研究ではこのようなオンラインマラソン大会を概観した上で、オンラインでのスポーツツーリズムについて参加者の開催地域に対する志向とそれに対する施策について検討することを目的とする。

## 【研究方法】

本研究では、COVID-19の影響により中止あるいは延

期された日本のオンラインマラソン大会に関する文献調査を行う。また、オンラインマラソン大会の参加者の動機や地域への志向を調査するため、大会公式ホームページに参加者から投稿されたテキストデータについて内容分析をおこなう。具体的な研究方法は以下の2つである。

### 1.文献調査

文献調査では、検索エンジン Google で「オンライン」「バーチャル」「マラソン大会」の3つのキーワードを中心にオンラインマラソン大会に関する Web ページが公開されているかどうかの調査を実施した。調査期間は2000年2月1日-2020年7月1日、言語：日本語、キーワード：「マラソン大会」AND（「オンライン」OR「バーチャル」）とした。

### 2.参加者の動機づけと地域への志向

2020年3月8日に開催されたオンラインマラソン大会である「名古屋ウィメンズマラソン 2020」において、公式大会ホームページが開設した参加者の投稿サイトのテキストデータを分析対象とした。調査期間は2020年5月1日から2020年7月1日までとした。125件の投稿されたものから最多の言語である日本語に限定し、最終的に112件が抽出され、これらを分析対象とした。得られたデータについて、内容分析の手法を用い検証を行った。なお、分析には KH Coder を使用した。

## 【調査結果】

### 1.文献調査

検索の結果、約6,530,000件が抽出された。そのうち、上位50件を調査した結果、2019年度までリアルで実施していた大会がオンライン大会に移行した公式ページは表1に示す6件であった。そのうち、1、2、3の「名古屋ウィメンズマラソン 2020」、「名古屋シティマラソン 2020」および「第5回 伊豆稲取キンメマラソン 2020」は既に開催されており、4、5、6の「東北・みやぎ復興マラソン」、「山形まるごとマラソン 2020」、「金沢マラソン」は今後開催予定である。既に開催された「名古屋ウィメンズマラソン 2020」と、今後開催予定の「東北・みやぎ復興マラソン」の2つについて詳細をみていく。

表 1 オンラインマラソン大会

	Webサイト名	URL	開催期間	概要	定員(人)
1	名古屋ウィメンズマラソン2020	http://womens-marathon.nagoya/online	2020/3/8-5/31	エリート(競技者専用)は通常通り開催し、他約22,000人はアプリを用いオンラインで開催。	22,000
2	名古屋シティマラソン2020	http://city-marathon.nagoya/	2020/3/8-5/31	名古屋ウィメンズマラソンと同様に、専用アプリにて走行距離を計測し自己申告を行う。	23,000
3	第5回 伊豆稲取キンメマラソン2020	https://kinme-marathon.jp/	2020/6/14	2020/4/1にオンラインマラソン大会に移行決定し開催。	2,000
4	東北・みやぎ復興マラソン	https://fukko-marathon.jp/	2020/8月、9月、10月の期間中に3回	従来までの大会コースに加え、新たに東日本大震災の沿岸被災地を中心に2コースを設定し開催。	無し
5	山形まるごとマラソン2020	https://yamagata-city-marathon.com/	2020/10/3-10/18	完走者には山形の地酒や米などの特産品を送付予定。	4,000
6	金沢マラソン	https://www.kanazawa-marathon.jp/	10月中旬～11月中旬	7/3にオンライン形式での開催を決定。完走者の中から抽選で金沢マラソン2021の出場権や全員に金沢の記念品を贈呈。	5,000

### 1-1.「名古屋ウィメンズマラソン」

日本で最初に参加者数が20,000人を超えるオンラインマラソン大会を実施したのが2020年3月8日にリアルで開催予定であった「名古屋ウィメンズマラソン2020」である。本大会は「名古屋国際女子マラソン」を前身とし2011年から創立された。参加者は女性限定となっておりエリートクラス、一般クラス、車椅子クラスなどにカテゴリー化され、エリートクラスについては日本代表の選考会も兼ねている。2020年3月にはエリートクラスは予定どおりに開催されたが、他クラスの定員22,000人については、オンラインマラソン大会として開催された。参加費はリアルな大会と同様な金額で13,850円から18,850円である。

本来は1日でスタートからゴールまで完走するところ、オンラインマラソンでは2020年3月8日から5月31日までの期間中に42.195kmの距離を参加者の都合のよい日時でアプリなどを用い完走を目標とするルールを設けた。アプリは3種類およびアプリが利用できない場合の自己申告による記録提出サイトを準備し、完走した場合には完走証と記念品が授与された。アプリの3種類は、①全距離を続けて走るマラソン型、②全距離を都合のよい時に4回に分けて走る累積走行距離達成型、③全距離を都合のよい時に、回数を定めず自分で決めた距離を走行する累積走行距離達成型である。また、指定アプリが使用できない場合は、ゴールした写真や他アプリのスクリーンショットなどを提出することで完走とみなされた。事前にどのアプリなどを使用するかを申告した上で各自が各地域で期間中に完走を目指すものである。

公式サイトには、参加者の動機づけに寄与することを

目的として映像を視聴可能にした。リアルで実施されたエリートクラスのスタートシーンやゴールシーンなどに加え、完走賞のひとつである宝石などの披露セレモニーの映像が準備された。また、有名タレントやオフィシャルスポンサーからの応援メッセージの映像を視聴できるようにし、参加者の動機づけにはたらきかける仕組みづくりがなされていた(図1)。

オンラインマラソンのスタート前のモチベーションUPに！  
オンラインマラソンに参加する皆様は事前にこのページを閲覧します。

大黒摩季さんからの応援メッセージ



オフィシャルサポートランナーからの応援メッセージ  
ランナーさんからの応援メッセージ



図1 「名古屋ウィメンズマラソン」公式ホームページスクリーンショット(2020/07/10アクセス)

### 1-2.「東北・みやぎ復興マラソン」

次に、2020年8月から10月までの指定で3回に分けて実施予定である「東北・みやぎ復興マラソン」について記す。この大会は、東日本大震災の被災地に新たな賑わいを創出し復興に寄与することを目的として2017年に創立され毎年9月から10月にかけて宮崎県で開催されてきた。しかし、3回目にあたる2019年は、開催地に大型台風が直撃したことから大会2日前に中止が決定された。

2020年には、募集を開始していたが COVID-19 の影響により 5 月 29 日に中止を決定した。参加費は参加クラスや距離によって 2,000 円から 15,000 円であった。大会事務局では中止決定に伴い、参加者に中止と参加費の返金処理についての連絡をしたところ、一部の参加者から参加費は被災地の復興への充当を希望し返金不要の申し出が相次いだ。これに対応し大会事務局では、全員に返金することを決定した後に、本来の被災地復興を目的としたオンラインマラソン大会を企画した。

参加ルールについては、クラスはカテゴライズせずに一本化し、距離は 42.195km に統一した。また参加費は 2,500 円の同一金額に設定した。各自が単一の専用アプリを使用し予め指定された 2 週間で従来の被災地を巡る 42.195km を自身の日時や距離に合わせ、1 回につき 1km 以上移動するルールを設定した。移動というのは走行だけでなく歩行でも可能である。それに伴いリアルな大会では制限時間に完走できる自信がなかった者や、全区間だけでなく一区間だけでも家族や友人と同伴で参加する者などが想定される。このようなルールを設定したところ、リアルな大会コースだった宮城県名取市・岩沼市・亘理町に加えて、岩手県気仙沼市や石巻市など合計 3 か所の沿岸被災地域をコースとした拡張を予定している(表 2)。参加者は各地を車両に頼らず自分の足で 42.195km を巡ることが課せられる。たとえば 3 回参加すれば 126.585km を自足で走行あるいは歩行することになる。参加賞として被災地に関連する商品を準備し、ホームページでは沿道の立ち寄り拠点や店舗の紹介に加え、被災後から現在の様子の変容に関する写真などを掲載している。

表 2 東北・みやぎオンライン復興マラソン

回	コース	開催期間	参加資格	参加費
1	気仙沼市～南三陸町	2020年8月1日00:00～8月15日23:59まで	満12歳以上 (中学生以上)	2,500
2	石巻市～女川町～東松島市	2020年9月5日0:00～9月19日23:59まで		2,500
3	岩沼市～亘理町～名取市(予定)	2020年10月3日～10月17日まで(予定)		2,500

先述の「名古屋ウィメンズマラソン」と異なる点は、リアルで実施予定だったコースなどを設定しているため、実際に参加者が指定地域を訪れるスポーツツーリズムが期待されている点である。本来、2km や 5km に参加予定者たちは、各自のペースで約 21 倍、8 倍にあたる

42.195km の長距離に挑戦することとなる。また、第 1 回が開催される 2020 年 8 月 1 日に合わせ前夜祭として、同年 7 月 31 日の午後 20:00 より YouTube の動画生配信を実施し、オンライン上で参加者の動機づけを促進した。

## 2.参加者の動機づけと地域への志向

オンラインマラソン大会の参加者の動機や地域への志向を調査するため、大会公式ホームページに参加者から投稿されたテキストデータについて内容分析をおこなった。既に開催された「名古屋ウィメンズマラソン 2020」において、公式大会ホームページが開設した参加者の投稿サイトのテキストデータを分析対象とした。収集したデータについて内容分析の手法を用い検証を行った。分析対象としたテキスト型データを分ち書きし構成要素を抽出するため、句読点、助詞、特殊記号を除いた。得られた構成要素は 6,741 であり閾値が 9 以上の構成要素は 100 であった。これらの頻出語をクラスター分析により似かよった文脈で使われていた語のグループを確認することで、どのような内容の投稿が多かったのかという探索を試みた。ここではクラスター化法として広く一般に用いられておりアルゴリズムがよく知られている Ward 法を採用した。9 のクラスターに分割した結果を表 3 に示す。なお、クラスター数については、分析結果の解釈のしやすさなどを総合的に判断して 9 に設定した。

### 2-1.各クラスターの解釈

表 3 をみると、クラスター 1 については「マラソン」「オンライン」「走る」「参加」「完走」「残念」「名古屋」などと大会に関する用語と開催地の用語が集まっている。次にクラスター 2 は、「開催」「達成」「友達」「勇気」などが集まっており、大会が「開催」され「達成」したことがよみとれる。たとえば「完走した自信や達成感はずっとこれから先の人生で力になると思う。」というものがあつた。クラスター 3、4、5、6 についてもクラスター 2 と同様に、決意や、家族や周囲への感謝の語が集まっている。クラスター 7 では、「不安」「手術」などの語があり、オンライン大会への不安や個人的事情の不安についてみられる。たとえば、「オンラインマラソンが開催されると聞いて手術前の不安な気持ちをかき消すためにコツコツと走りました」という形でこれらの語は用いられた。クラスター 8 では、「フルマラソン」「はじめて」など、大会の出場権に関する語句が集まっている。クラスター 9 では、「走れる」「挑戦」「ゴール」などと走れることへの喜びに関する語句が集まっている。

表 3 頻出していた語のクラスター分析

クラスター1	出現回数	クラスター3	出現回数	クラスター5	出現回数	クラスター7	出現回数	クラスター9	出現回数
走る	261	今年	39	月	35	娘	17	走れる	48
マラソン	155	来年	38	応援	28	距離	16	今回	37
オンライン	119	練習	37	コロナ	23	不安	15	一緒	37
名古屋	100	頑張る	33	少し	16	最初	13	ゴール	25
思う	97	行く	31	ラン	16	アプリ	12	挑戦	19
完走	97	出来る	30	キロ	16	母	11	感じる	18
参加	81	年	23	毎日	15	手術	10	楽しむ	18
ウィメンズマラソン	44	目標	22	当日	14	スタート	9	ウィメンズ	16
中止	35	自分	20	仲間	13			知る	15
残念	32	目指す	17	続ける	13	クラスター8	出現回数	最後	14
		出場	13	ランニング	13	フルマラソン	35	嬉しい	13
クラスター2	出現回数	息子	11	始める	12	エントリー	34	ティファニー	13
開催	22	楽しみ	10	友人	11	時間	31	予定	12
達成	17	ありがとう	9	心	10	初めて	28	言う	12
思い	15			沿道	10	次	14	改めて	11
友達	14	クラスター4	出現回数			トレーニング	12	感動	10
毎年	11	大会	73	クラスター6	出現回数	当選	12		
良い	9	前	20	気持ち	32	出る	12		
勇気	9	今	19	感謝	28	歳	11		
気分	9	楽しい	18	人	21	諦める	10		
サブ	9	コース	15	本当に	18				
回	9	見る	14	決める	15				
		ランナー	13	家族	14				
		昨年	13	無事	13				
		女性	11	皆さん	10				
				人生	10				

### 【考察・今後の展開】

日本において2020年1月以降、大規模なオンラインマラソン大会は「名古屋ウィメンズマラソン」であった。その後、各地で同様な形式で開催されたり検討されたりしている。COVID-19の影響下において、各大会が中止となりオンラインで大会を開催する動きがみられる中、当初は参加者から不安や憤りなどの意見が散見されたが、大会終了後に「名古屋ウィメンズマラソン」ホームページに投稿された参加者のテキストからは、完走した喜びや達成感などが観察でき友人や家族への感謝の語が頻出された。また「一緒」「仲間」などコミュニティに関する語が確認できた。一方で、開催地域である愛知県名古屋市に関する記述や語は少ない傾向であった。ここから読み取れることは、オンラインスポーツツーリズムでは地域に対する志向が希薄化しているのではないかということである。また、オンライン上で共通目的や目標をもったコミュニティが形成され、共動性を持ち完走という目標を達成した傾向がみられた。

他方、「東北・みやぎ復興マラソン」は2020年7月時点で未開催ではあるが、「名古屋ウィメンズマラソン」と異なり、リアルなコースを走行あるいは歩行を課していることや、地域の特産品を賞品にするなど参加者と地域とのタッチポイントを増加させる施策がなされている。

この施策によって参加者の地域への志向がどのように影響するのかを探求する必要がある。

観光庁(2011)によれば、「スポーツツーリズムを推進する使命・目標は、スポーツツーリズムによる『より豊かなニッポン観光の創造』である」と記載されている。これ以降、スポーツツーリズムによる社会的効果や経済的効果について盛んに議論されているが、オンラインスポーツツーリズムについての議論ははじまったばかりである。ツーリズムという文脈では、COVID-19の終息の時期が想像できない昨今では、受け入れ地域の社会に対し十分に配慮しなければいけない。したがって、これからのオンラインスポーツツーリズムでは、当初から長期的な展望でオンライン上と現実社会と合わせた構想を描くべきであると考えられる。

なお、本研究の一部はJSPS 科研費 20K19653 および新潟国際情報大学経営情報学部共同研究費の助成を受けたものです。

### 【参考文献】

- 杉本厚夫(2016)「市民マラソンは都市を活性化するか：大阪マラソン共同調査が語ること」『関西大学経済・政治研究所』
- 観光庁(2011)『スポーツツーリズム推進基本方針』紙面の都合上、他は省略いたします。